

平成 18 年 11 月 28 日

各 位

西日本シティ銀行

消費者動向調査 No.99「冬のボーナス使いみち調査」

西日本シティ銀行（頭取 久保田勇夫）は、消費者動向調査を定期的を実施しております。今般、「冬のボーナス使いみち調査」の結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。

記

調査時期：平成 18 年 11 月 調査対象：福岡県内のボーナスがある家庭の主婦 500 人 (うち回答者 476 人、回答率 95.2%)
--

調査結果要約

- ◆ **今年の冬のボーナス支給予想、昨年冬と比較して“少なくなる”が 11.7 ポイント減少。“多くなる”が 1.5 ポイント増加。全体的に回復基調を維持。**

今回の調査で、冬のボーナスが“昨年より少なくなる”と予想する割合が 11.7 ポイント減少、“昨年より多くなる”も 1.5 ポイント増加し、回復基調を維持している。
(調査結果本文 2P)

- ◆ **冬のボーナス、自由に使える金額は、夫婦ともに上昇！主婦は 4.7 万円、夫は 6.1 万円。**

冬のボーナスで自由に使える金額は、主婦の平均 4.7 万円（昨年冬比 +0.3 万円）、夫の平均 6.1 万円（昨年冬比 +0.8 万円）。景気回復の恩恵が徐々に家計にも波及しつつあるようだ。
(調査結果本文 3P)

- ◆ **冬のボーナスの使いみち予定は今回も「預・貯金」がトップ！「家計補充」が 2 位。**

冬のボーナスの支出予定トップは今回も「預・貯金」で、昨年冬と比較すると 2.5 ポイント増加。消費者の貯蓄意識は依然として強いようだ。
(調査結果本文 4P)

- ◆ **冬のボーナスの貯蓄、その目的は“老後資金の備え”が昨年冬に比べ、4.3 ポイント上昇！平成 16 年冬からは 9.8 ポイント上昇！**

冬のボーナスの貯蓄の目的は“将来の家計補充”が昨年に続きトップ。続いて“老後資金の備え”が 2 位で、昨年冬に比べ 4.3 ポイント上昇。年金問題など老後への不安が顕著に表れている。
(調査結果本文 5P)

- ◆ **冬のボーナスを貯蓄する際、参考にするものは「金融機関の店頭セールス」が過半数でトップ！「新聞・雑誌」が 2 位。**

主婦が冬のボーナスを貯蓄する際、参考にするものは「金融機関の店頭セールス」が過半数でトップ。続いて 2 位は「新聞・雑誌」で約 3 割。
(調査結果本文 6P)

◆ **冬のボーナスの貯蓄・運用にあたり、投資信託を“既に購入している”が今年夏と比べ 8.2 ポイント増加！**

冬のボーナスの貯蓄・運用にあたり投資信託について、“既に購入している”が今年夏に比べ 8.2 ポイント増加。銀行が取り扱っている個人年金保険について“既に購入している”が今年夏に比べ 5.7 ポイント増加。「貯蓄から投資へ」の流れが徐々に進んでいるようだ。
(調査結果本文 7P)

特別調査結果

現在の景気拡大局面が戦後最長の「いざなぎ景気」を超えたが、主婦の景気についての実感はどうなのかを調査した。

◆ **最近、景気は良くなったと思うかの問いに対し“悪くなった”と回答した主婦が 15.1%と、“良くなった”の 12.8%を上回った。**

最近、景気は良くなったと思うかの問いに対し“良くなった” 12.8%、“悪くなった” 15.1%と景気回復の実感にまでは結びついていないようだ。今後の景気については、“良くなる” 23.5%が“悪くなる” 9.3%を 14.2 ポイント上回っており、将来の景気回復に対する期待感がうかがえる。
(調査結果本文 8P)

以 上

[調査結果本文はこちら](#)

この調査に関するお問い合わせは
西日本シティ銀行 広報部 堺まで
TEL 092-461-1869